



長い間おまたせしました！(読み語りボランティア再開)

7月10日(金)に学校再開後、初となる「ひまわりの会」による読み語りを実施しました。有り難いことに初回は、新メンバーを含む26名のお父さん、お母さん、地域の方々の参加がありました。各学級では、読み手と聞き手が一体となった温かな雰囲気の中でメルヘンの世界を楽しんでいる様子がうかがえました。久しぶりということもあり、読み手の皆さんも一層、感情を込めて読み語ってくれました。学校では、今回を皮切りに今後も子どもたちの豊かな心情を育むために、読み語り活動を継続してまいります。また、読み語りは、聞き手だけでなく語り手にとっても心と頭の栄養となり、親子の絆づくりや人と人を繋ぐすてきな活動です。是非、ご家庭でも読み語りを実践してみたいかがでしょうか。読み語りの後に「ひまわりの会」の情報交換会を持ちましたが、どの会員からも子どもたちの聞く態度の素晴らしさを褒めていただきました。良い聞き手は良い語り手が育て、良い語り手は良い聞き手が育てると言いますね。次回の読み語りも楽しみにしています。なお、「ひまわりの会」では、常時、新規会員を募集中です。



主体的に学び豊かな表現力を身につけよう！(研究授業実践)

先月から校内研修の一環として5年生を皮切りに高学年による研究授業を実践しています。今年度の校内研修は「主体的に学び、豊かに表現する児童の育成」をテーマに国語科を中心として授業改善に取り組んでいます。学校は学ぶ場所であり、児童の学力向上は学校・教師の使命と考えています。研究授業は、授業力向上の要となるため本校では、全ての教師が研究授業を実践し、授業改善を通して児童の学力向上に努めてるところです。学校再開後、2ヶ月近くが経ちましたが高学年を中心に児童の授業態度の改善・充実ぶりがうかがえます。授業の主役は子どもたちです。主体的に学ぶ子どもの育成をゴールに、今後も質の高い授業実践を目指し、職員一体となって取り組んで参ります。



十秒の愛

仲島 正教

子どもって、忙しいときに限って、寄ってきます。子どもって、なかなか、さっさとくまません。

子どもって、なかなか はっきりの言葉もありません。でも、たった十秒でもいいのです。まず子どもを抱きしめてあげてください。ただ十秒でもいいのです。

「甲ー！」と言いつつ待ってあげてください。たった十秒でもいいのです。

せかさずじ、じつと聞いてあげてください。すると、そこに「笑顔」が生まれます。そこに「つながり」が生まれます。たかが十秒、されど、十秒「十秒の愛」は、子どもを幸せにするのです。

子どもは忙しいときに限って、よく声をかけてきます。

たとえば夕食の支度に忙しい時、「おかあさん、おかあさん」と近づいてきたらどうしましょうそんな時は、たった十秒でもいいのです。支度している手を止めて、「いぬね、今、手が離せないの。あとでゆくの聞かぬ。」と言って十秒間だけしっかりと抱きしめてください。きっと、子どもは笑顔で待ってくれますから……

子どもが、ただじつと話しかけてきたらどうしましょう聞いていていて「うーん、うーん」もあやふやなしょう。そんな時、いつも十秒間だけ待ってあげてください。きっと、子どもは笑顔になりますから…… たかが十秒、されど十秒

子どもが育つ「十秒の魔法」なのです。